

合計はほぼ同じ、必須問題は第106回より低下、理論問題と実践問題は第106回よりわずかに増加しています(表3)

第107回の領域別正答率では、例年難易度の高い理論問題の「物理・化学

第108回国試に向けた概略と対策

第108回の合格を目指すためには、まず薬剤師国家試験の概要を知ること、次に最近の国家試験問題の傾向を掴むことが大切です。

「必須問題」は、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的資質を確認する問題であり、共用試験のうちC B T試験と同様の五肢択一の問題です。一般問題に比べて比較的正答率が高い問題が多く得点源となります。80~90%の得点率を目指して勉強してください。ここ数年、必須問題の中では他科目と比較して低い傾向が続いていた「物理」の正答率は高くなり、「生物」「病態・薬物治療」の正答率が60%台と低くなりました。ただし、生物は「物理・化学・生物」として区分されるため、足りに該当する受験者は少ないと予想されます。

「理論問題」は、6年間で学んだ薬学理論に基づいた内容の問題であり、難易度は必須問題より高く、第107回も難易度の高い問題が多く出題されていました。また、「化学」「法規・制度・倫理」「衛生」の3連問が出題され、法規・制度・倫理が理論問題の連問に出題されたのは初めてでした。「薬理」と「病態・薬物治療」の連問も3題出題され、現コアカリを意識した出題となりました。この傾向は第108回以降でも変わらず続くことが予想されます。各科目で学修した知識を医療につなげ総合的な能力を発揮できることが期待されています。

「実践問題」は、「実務」のみの単問と「実務」とそれ以外の科目とを関連させた連問形式の「複合問題」からなっています。「複合問題(基本は2連問)」は、症例や事例、処方箋を挙げて臨床の現場で薬剤師が直面する問題を解釈・解決するための資質を問う問題で、実践力・総合力を確認する出題で

「生物」「薬剤」の正答率が継続して低く、実践問題では、第106回同様「物理・化学」「薬剤」の正答率が低く、第107回では「病態・薬物治療」も低い正答率でした(表4)

す。複合問題でも、多科目をつなげる連問が出題されており、物理、化学、実務(2題)の4連問では、光線過敏症について原因薬物を服用薬の中から推測させる基礎科目を臨床につなげる内容でした。また、薬剤、薬理、実務(2題)の4連問では、MRSA感染症についてバンコマイシン投与開始後の治療経過を踏まえた主治医への対応など実践的な内容が出題されました。第108回に向けて、実務実習を思い出しながら、基礎も含めた各科目の知識を医療につなげる学修を行いましょ

科目別の国試対策

「物理」では、既出問題のキーワードを暗記するだけでなく、キーワードの意味を理解し、出題内容に対して応用できるようにする必要があります。そのためには、既出問題の周辺知識も学修し、専門用語を理解しましょう。また、臨床現場で使用する製剤の物理的な要因、臨床検査の分析技術の原理などを理解し、実践問題につなげましょう。

「化学」では、問題の解き方を覚えるのではなく、自身の知識を活用できるように既出問題の理解に努めることが重要です。骨格・命名法、立体化学、無機化学、生薬などの構造を含めた理解で習得した知識をベースに、医薬品の構造からその性質を考えたり、相互作用を考えたりできるようにしましょう。

「生物」では、実験考察問題、図表、構造などを用いた問題が多く出題され、考える力を必要とする問題の出題も多いです。模擬試験などを活用して、より多くの例題に取り組み思考力を養いましょう。

「衛生」では、コロナ感染症を意識

表4 第107回薬剤師国家試験の領域別正答率

領域系統	必須問題	理論問題	実践問題	総合	問題数
物理	75.0%	45.4%	45.3%	52.8%	20
化学	81.9%	48.6%	55.2%	58.6%	20
生物	67.7%	58.4%	72.8%	64.3%	20
物理・化学・生物	74.8%	50.8%	57.8%	58.5%	60
衛生	93.5%	62.4%	70.3%	72.1%	40
薬理	89.3%	77.2%	85.5%	83.8%	40
薬剤	72.5%	49.6%	56.2%	59.8%	40
病態・薬物治療	66.2%	63.1%	53.1%	61.8%	40
法規・制度・倫理	89.9%	78.4%	79.5%	82.6%	30
実務	82.9%	—	67.9%	69.4%	95
総合	80.1%	61.0%	67.2%	68.7%	345

※ 赤字：正答率60%未満

※ 第107回は、問98、問328が採点考慮のため、全員加算

う。

第107回国試は24年度入学者から適応される新たな「コアカリ」を見据えた複数科目の連問、多科目の知識で解答する問題など「複合的な力」を必要とする問題が増加し、コロナ禍の臨床現場で話題となったパルスオキシ

メーターなどの医療機器、アメンメビルや緊急避妊薬などの医薬品も出題されていました。一般用医薬品との相互作用を問う内容も多く出題され、調剤薬局での即戦力を発揮することが求められている内容でした。次回国試でもこの傾向は続くでしょう。

一般的な疾患からの出題が多く、代表的8疾患からの出題も目立ちました。実践問題全体としては、癌、感染症、循環器系疾患の出題が多いため、これらの疾患から学修を進めましょう。検査値から患者の状況を把握して治療法を選択する臨床的な問題が出題されています。また、情報・検定については、既出問題の理解から学修をはじめましょう。

「法規・制度・倫理」では、薬剤師としての業務を遂行するために必要な法的知識や臨床現場での行動等の適正性を問う内容が出題されています。また、地域包括ケアシステム、後発医薬品の使用促進、ポリファーマシー対策など薬剤師が関わる国の施策についても出題が予想されますので、薬剤師を取り巻く環境の変化にも敏感になっておきましょう。

「実務」では、衛生、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理等、多科目で学ぶ範囲の出題や、医師に治療薬や治療法を提案する内容も出題されていますので、苦手科目を作らずに症状、検査値、処方薬等の患者情報から適した医療を導き出す総合的な情報処理能力を養っていきましょう。

「考える力」「対応力」を身につけて、効率よい充実した実習にしよう!

改訂モデル・コアカリキュラム対応

薬学生のための臨床実習

一般社団法人日本病院薬剤師会 監修 一般社団法人日本病院薬剤師会薬学教育委員会 編集

■代表的8疾患の症例について薬物治療の考え方や進め方を対話形式で解説

カルテや患者情報から、学生と指導薬剤師のディスカッションを通して薬物療法を検討し、医師への処方提案、患者への服薬指導、学生カルテの記録までの流れがわかります。

◎ポイントごとに「何をどう考えていけばよいか」が掴める!

◎実際の医療現場をイメージしながら学べる!

詳細はコチラ▶



B5判/159頁/定価2,300円+税

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ(<https://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。